（証人の宣誓）

第十二条の六　裁判長は、証人に宣誓書を朗読させ、かつ、これに署名させなければならない。証人が宣誓書を朗読することができないときは、裁判長は、裁判所書記官にこれを朗読させなければならない。

2　裁判長は、相当と認めるときは、前項前段の規定にかかわらず、同項前段に規定する署名に代えて、宣誓書に宣誓の趣旨を理解した旨の記載をさせることができる。

3　前二項の宣誓書には、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また、何事も付け加えないことを誓う旨を記載しなければならない。

（鑑定人の宣誓）

第十二条の七　鑑定人の宣誓書には、良心に従って誠実に鑑定をすることを誓う旨を記載しなければならない。　［新設］

2　鑑定人の宣誓は、宣誓書を裁判所に提出する方式によってもさせることができる。この場合における裁判長による宣誓の趣旨の説明及び虚偽鑑定の罰の告知は、これらの事項を記載した書面を鑑定人に送付する方法によって行う。

（受命裁判官等の証拠調べの調書）

第十二条の八　受命裁判官又は受託裁判官の所属する裁判所の裁判所書記官は、第十二条の十一（民事訴訟規則の準用）において読み替えて準用する民事訴訟規則第百四十二条（受命裁判官等の証拠調べの電子調書）の調書に同条の文書の写しを添付することができる。　［新設］

（更正決定の方式）

第十二条の九　更正決定は、裁判書の原本及び正本に付記しなければならない。ただし、裁判所は、相当と認めるときは、裁判書の原本及び正本への付記に代えて、決定書を作成し、その正本を当事者に送達することができる。　［新設］

（特別抗告等を提起する場合における費用の予納）

第十二条の十　法第十五条（民事訴訟法の準用）において準用する民事訴訟法第三百三十六条（特別抗告）第一項の抗告を提起するときは、抗告状の送達に必要な費用のほか、抗告提起通知書及び抗告理由書の送達、裁判の告知並びに抗告裁判所が記録の送付を受けた旨の通知に必要な費用の概算額を予納しなければならない。　［新設］

2　前項の規定は、法第十五条において準用する民事訴訟法第三百三十七条（許可抗告）第二項の申立てをする場合について準用する。この場合において、前項中「抗告提起通知書」とあるのは「抗告許可申立て通知書」と読み替えるものとする。

（民事訴訟規則の準用・法第十五条）

第十二条の十一　特別の定めがある場合を除き、承認援助手続に関しては、その性質に反しない限り、民事訴訟規則第一編から第四編まで（総則、第一審の訴訟手続、上訴、再審）の規定（同規則第一条（申立て等の方式等）第三項、第一条の二（電子調書のファイルへの記録の方式）、第四条（催告及び通知）第三項及び第四項、第十四条（法人でない社団等の当事者能力の判断資料の提出）第二項から第四項まで、第十五条（法定代理権等の証明）第二項及び第三項、第十八条（法人の代表者等への準用等）第二項及び第三項、第二十三条（訴訟代理権の証明等）第三項、第二十四条（訴訟費用額の確定等を求める申立ての方式等）第三項から第五項まで、第二十五条（相手方への催告等）第二項、第二十六条（費用額の確定処分の方式）後段、第三十三条の三（電磁的訴訟記録の閲覧等の方法等）、第三十三条の四（訴訟に関する事項の証明

（民事訴訟規則の準用・法第十五条）

第十二条　特別の定めがある場合を除き、承認援助手続に関しては、その性質に反しない限り、民事訴訟規則の規定（同規則第三十条の二（映像と音声の送受信による通話の方法による口頭弁論の期日）及び第三十条の三（音声の送受信による通話の方法による審尋の期日）の規定を除く。）を準用する。　［新設］